

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3146792号
(U3146792)

(45) 発行日 平成20年12月4日 (2008. 12. 4)

(24) 登録日 平成20年11月12日 (2008. 11. 12)

(51) Int.Cl.
A 4 5 C 13/00 (2006. 01)F I
A 4 5 C 13/00 M

評価書の請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 7 頁)

(21) 出願番号 実願2008-5967 (U2008-5967)
(22) 出願日 平成20年8月26日 (2008. 8. 26)(73) 実用新案権者 399040645
山田 廣
静岡県静岡市清水区下野北 1 1 - 1 4
(72) 考案者 山田 廣
静岡県静岡市清水区下野北 1 1 - 1 4

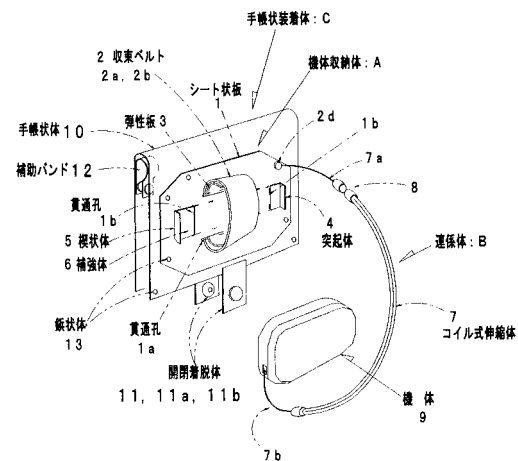
(54) 【考案の名称】手帳型ホルダー。

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】出張、旅行必携品を嵩張らなく、安全に装着し、出し入れ容易な機構で、財布、コインケースを併用保持出来て、携帯電話等の異なる機体サイズに対応可能な収納機能と、滑落保護機能、装着機能、又、腰ベルト無しの際にも携行出来、分解と展開可能な構造と、簡素な意匠性を備えたホルダーを得る。

【解決手段】手帳状体へ収納機能と装着機能、保持機能を備える手段を備え、シート状板 1 へ貫通孔 1 a を設け、収束ベルト 2 と、弾性板 3 で胴周りを収束し、前後を突起体 4 と楔状体 5、補強体 6 で制動する構造体へ、コイル状伸縮体付き連係体 B を併設した機体収納体 A とする。手帳状体 1 0 へ開閉着脱体 1 1 と補助バンド 1 2 と、又、I 字状体と着脱具を取付け、財布状体を着脱する式の手帳状装着体 C とする。又、財布状体へ着脱具付き S 字状板を備えて物品面上の I 字状体へ架ける式で着衣等の縁に装着する保持体とする。更に、鉾打ち模様と家紋状装飾を施す。

【選択図】図 1



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

手帳状体へ機体収納機能と装着機能、保持機能を備える第一手段と、シート状板へテーパ状に貫通孔を設け、着脱式収束体と、弾性板で機体胴周りを収束し、前後を突起体と楔状体、補強体で制動する構造体へ、コイル状伸縮体付き連繫体を併設した機体収納体とする第二手段と、手帳状体へ開閉着脱具と補助バンドを備え、又、I 字状体と着脱具を取付け、財布状体を着脱する手帳状装着体とする第三手段、尚、着脱具付き S 字状板と I 字状体の組み合わせで腰ベルト状体の縁に装着し、内外で物品を保持する第四手段と、更に鉤打ち模様と家紋状装飾を施す第五手段でなる組立て式手帳型ホルダー。

【請求項 2】

矩形状のシート状板へ貫通孔を設け、带状収束体と、弾性面板、及び、反転式制脱体を備えた展開状体を、接着具を介してなる巻き状の収納体へ着脱具付き折りたたみ状装着体を固着し、手帳状体を逆さ方向で吊るす式のバッグ状体へ I 字状面板と着脱具付き S 字状板を設け、物品を架ける式の展開組立て式手帳型ホルダー。

10

20

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

出張旅行必携品用ホルダーに関する。

【背景技術】

【0002】

出張、旅行において、手帳、カード類、財布、コイン入れ、携帯電話機、デジタルカメラ等多種の必携品があり、衣服のポケットまたはバッグ、ウェストポーチ等へ収納している。しかし、嵩張り重いため放置し、紛失の心配がある。又、カメラ、携帯電話機は専用の箱状ケースを腰ベルトへ垂直方向に吊り下げる式が一般的である。

【0003】

箱状の場合固形化されているため、不要の際にもバッグの中で嵩張り、機体のサイズが違う場合ケースが対応できない。滑落保護はカバーで上部を塞ぐ式が一般的であるが、機体を出し入れする際、不意に滑落する心配がある。又、首廻りに吊るす状態は安定せず、外観上違和感があり、身体に負担をかける。

40

【特許文献 1】特開2000-316623号公報

【考案の開示】

【考案が解決しようとする課題】

【0004】

手帳状体へ多種の出張、旅行必携品を嵩張らなく、安全に装着し、出し入れが容易な機構で、財布、コインケース、を併用保持出来て、又、カメラ、携帯電話機等の異なる機体サイズに対応可能な機体収納機能と、滑落保護機能、装着機能、又、腰ベルト無しの際にも携行出来、分解と平面状に展開可能な構造と、更に、簡素な構造の意匠性を備えたホルダ

50

ーを得る。

【課題を解決するための手段】

【0005】

手帳状体へ機体収納機能と装着機能、保持機能を備える第一手段と、シート状板へテープ状に貫通孔を設け、着脱式収束体と、弾性板で機体胴周りを収束し、前後を突起体と楔状体、補強体で制動する構造体へ、コイル状伸縮体付き連繋体を併設した機体収納体とする第二手段と、手帳状体へ開閉着脱具と補助バンドと、又、内側へI字状体と着脱具を取付け、財布状体を着脱する式の手帳状装着体とする第三手段、尚、着脱具付きS字状板とI字状体の組み合わせで腰ベルト状体の縁に装着し、内外で物品を保持する第四手段と、更に鉚打ち模様と家紋状装飾を施す第五手段を備える。

10

【0006】

矩形状のシート状板へ貫通孔を設け、带状収束体と、弾性面板、及び、反転式制脱体を備えた平面状体を、接着具を介してなる巻き状収納体を着脱具付き折りたたみ状装着体へ固着し、手帳状体を逆さ方向で吊るすバッグ状体へI字状面板と着脱具付きS字状板を設け、物品を架ける式とする。

【考案の効果】

【0007】

手帳状体へ機体収納機能と装着機能、带状保持体、滑落保護機能を備えることにより一括して必携品をコンパクトで安全に携行でき、冊子、バッグ、財布等に多岐の面に応用できる。機体収納体は収束体と制脱体、及び、連繋体の組み合わせ構造であり、面板上の貫通孔をテープ状にすることにより、台形状の収束環を形成するため、機体の挿入が容易で、適度な密着性が生ずる。又、面ファスナーで接続する式は異なる機体サイズに対応でき、尚、弾性面板の併用はクッション性が生じ、柔軟性の収束体の環状形を適当に維持出来る。又、機体前後を補強体上へ突起体と楔状体、補強体で制脱する機構を付加することにより安定性があり、着脱が容易で、横挿入式にも対応できる。又、単体でバッグ表面、腰ベルトに応用できる。

20

【0008】

又、収納体と機体をコイル式伸縮体で連繋する機能の付加は収納体から離さずに機体进行操作でき、滑落の心配が無く、挿入機体を、収束体を介して絡める式で締着出来、又、コイル部分が機体と面板間で楔状態となり機体の離脱を防ぐことが出来る。又、収束体と連繋体のみの状態で腰ベルトに装着が出来る。依って、不意に滑落しても常に連繋状態のために安全である。

30

【0009】

補助バンドと開閉用着脱具を備えた折りたたみ状装着体にI字状板を備え、開閉着脱体付き折りたたみ状体を着脱する式を併設する式は、財布、手帳、パスポート、コイン入れ等をコンパクトに保持でき、応用性が広がる。展開式でシート状板のため、着脱体の取付けなどの孔加工と、着脱具の取付けが容易で嵩張らない構造を得られる。板バネ状のS字状保持体とI字状面板の組み合わせは、容易に着衣等の縁に装着し、内外で財布状体と機体等を同時に携行でき、腰ベルト無しの際にも応用できる。更に、図5に示す重なり状の筒状収納体と、鉚打ち模様及び、家紋状装飾を施すことにより簡素な意匠性が得られる。

40

【考案を実施するための最良の形態】

【0010】

機体保持機能と、収納機能、装着機能、滑落保護機能、保持機能を一括して手帳状体へ備えて身辺へ装着する形態とし、尚、平面状に展開できる構造とする。

【0011】

機体収納はシート面へ貫通孔を設けて収束ベルトを挿入、背面側で連結して機体胴周側を収束する保持環とし、面状着脱体で機体サイズに応じて胴周りに合わせる収束機能と、機体前後を補強当て板上へ突起体と楔体を備えて制脱する。

又、柔軟性の保持ベルトで収束された機体は弾性体の反発力でクッション性が生じ、機体

50

は張力と反発力で保持する。

【0012】

又、連繫体のコイル式伸縮体部分は、保持環内の機体に絡めて引っ張り力で締着状態となり、又、機体背面に楔作用で制脱される。因って、機体収納体と機体を連結する。

【0013】

手帳状体へ開閉用着脱具を取付け、装着体として幅広のベルト腰ベルト用として対応させ、又、腰用細ヒモへの装着用として補助バンドを取付ける。又、分解、展開出きる構造とするため着脱具を応用する。面板上へI字状体を備えて、折りたたみ状の収納体を架ける式と、又、着脱具付きS字状面板を着衣の縁等に装着し、内外で物品を架ける式とする。袋状体の縫合部へ鉤打ち模様と家紋状装飾を施して簡素な意匠性を得る。

10

【0014】

又、形状のシート状板へ貫通孔を設け、带状収束体と、弾性面板、及び、反転式制脱体を備えた平面状体を、接着具を介してなる巻き状収納体を着脱具付き折りたたみ状装着体へ固着し、手帳状体を逆さ方向で吊るすバッグ状体へI字状面板と着脱具付きS字状板を設け、物品を架ける式とする。

【実施例】

【0015】

図1は全体を示す正面斜視図で、機体収納体：Aと連繫体Bを手帳状装着体：Cへ一体化している。機体収納体：Aはシート状板1へ機体胴周り収束用の貫通孔1aをテーパ状に設け、着脱体付き収束ベルト（2、2a、2b）と、弾性板3を備えて、貫通孔1bを介して機体前後を制動する突起体4と楔状体5、補強体6を備えている。尚、コイル状伸縮体7とストラップ（7a、7b）と着脱具8でなる連繫体：Bを機体9と連結している。又、手帳状装着体：Cは手帳状体10へ開閉着脱体（11、11a、11b）と補助バンド12を取り付け、又、鉤状体13で形成している。

20

【0016】

図2は手帳状装着体：Cの内側を示す斜視図で、I字状体14を備え、手帳状体16を着脱し、ボタン状着脱具15へは着脱具17a付き財布状体17を着脱する式としている。又、状挿し部10aを取り付けている。

【0017】

図3はI字状体とS字状面板の使用要領図で、財布状体18へS字状体18aと面ファスナー18b、I字状体18cを取り付け、腰ベルトへ装着する式の保持体とし、外側にはI字状体14a付きの手帳状装着体：Cと、内側へはコインケース（19、19a）を着脱する式としている。I字状体は带状と線状がある。尚、折りたたみ式保持体は面ファスナーとスナップボタンを備えて容易に着脱出来る式としている。又、I字状体を備えて、パスポート等を吊るす方法で利用出来る。更に、収納体の縫合部を鉤打ち状態にしている。

30

【0018】

図4は筒状収納体の展開状態を示し、矩形状のシート状板20へ、複数の貫通孔20aと、面ファスナー20b、ヒモ通し20c及び、面ファスナー21a付き収束ベルト21と、弾性板22、及び、反転式制脱体（23、23a、23b、23c）を挿入側へ取り付け、反転式制脱体（24、24a、24b、24c）を反対側へ備えていて、両者は展開時と組み立て時のために支点を介して旋回できる構造としている。

40

又、接合部に鉤状体25を施し、又、袋状体へ鉤打ち模様と家紋状装飾26を施す。

【0019】

図5は筒状収納体と装着体を示す斜視図であり、展開状態を筒状に組立てた収納体を示し、制脱体23は機体挿入側で反転して開閉するもので、制脱体24は固定して横挿入型としている。又、背面側に開閉用着脱具付き折りたたみ状装着体：Eを備えている。図6は筒状収納体と手帳状バッグ及び保持体の組み合わせ状態を示す全体図で、筒状収納体：Dへ開閉用着脱具付き折りたたみ状装着体：Eを

固着された状態を示し、又、手帳の表紙状体を鉤打ち状のバッグ27として、逆さ方向で肩

50

掛けベルト27cを備えている。又、バッグ背面のI字状体27bへ掛ける財布付きのS字状面
板を腰ベルトへ装着し、外側へ収納体を架ける形態としている。

【産業上の利用可能性】

【0020】

シート状で軽便な構造であるため、旅行用品、宴会用景品、記念品、名刺代用品等に利用
でき、応用が可能で文具、皮革加工、衣服、特産品、化粧品、印章加工、アパレル業界等
に寄与できる。又、廃材、余剰、休眠材料を再生利用できる。

【図面の簡単な説明】

【0021】

【図1】組立て式手帳型ホルダーの正面側全体斜視図

10

【図2】装着体：Cの内側を示す斜視図

【図3】I字状保持体とS字状保持体の使用要領図

【図4】展開、組立て式ホルダーの筒状収納体の展開状態を示す平面図。

【図5】筒状収納体と折りたたみ状装着体を示す正面側斜視図

【図6】筒状収納体とバッグ及び、保持体の組み合わせ状態を示す斜視図

【符号の説明】

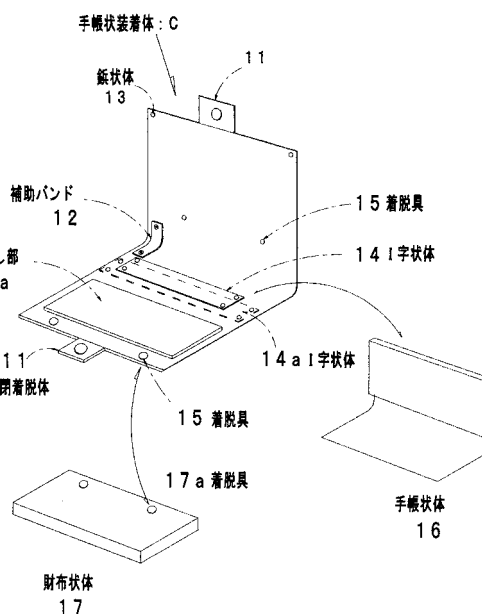
【0022】

A：機体収納体、B：連繋体、C：手帳状装着体、D：筒状装着体、E：折りたたみ状装着
体、1：シート状板、1a：貫通孔、1b：貫通孔、2：収束ベルト2a,2b：面ファスナー
、3：弾性板、4：突起体、5：楔体、6：補強体、7：コイル状伸縮体、7a,7b：ストラ
ップ、8：着脱具、9：機体、10：手帳状体、10a：状挿し部、11、11a、11b：開閉着脱
体、12：補助バンド、13：鉤状体、14：I字状体、14a：I字状体、15：ボタン状着脱具
、16：手帳状体、17：財布状体、17a：着脱具、18：財布状体、18a：S字状面板、18
b：面ファスナー、18c：I字状面板、19：コインケース、19a：V字状面板、20：シ
ート状板、20a：貫通孔、20b：面ファスナー、20c：ヒモ通し、21：収束ベルト、21a
：面ファスナー、22：弾性板、23：反転式制脱体、23a：着脱具、23b：着脱具、23c：
支点カシメ、24：反転式制脱体、24a：着脱具、24b：着脱具、24c：支点カシメ、25：
鉤状体、家紋状装飾26、

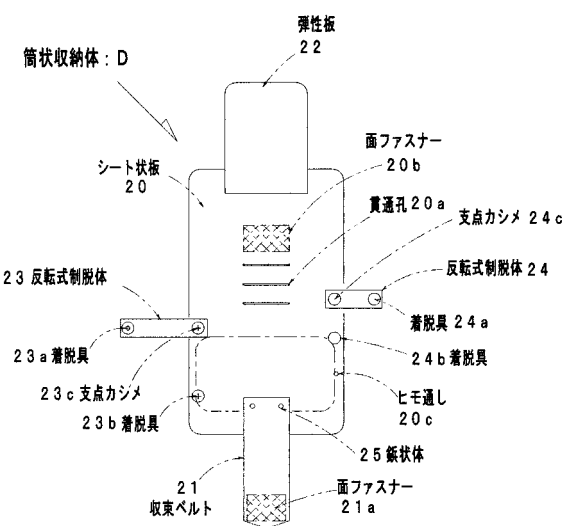
20

30

【图 2】



【图 4】



【図 6】

